

外国人参政権法案の問題点

外国人参政権法案とは「日本に住む外国人に日本の参政権（選挙権・被選挙権）を与える」法案です。素晴らしい法案に見えますが、実は日本人と外国人の対立を生む、非常に危険な法案です。

外国人参政権法案は日本国憲法第15条に違反します。「公務員を選定し、及びこれを罷免することは、国民固有の権利である。」と明記されています。

最も大きな問題は「内政干渉が容易になる」ということです。例えば外国人の議員がいれば、同じ外国の人ならその人に投票します。そして、当選したら祖国に有益な法案を提出することができるのです。最悪、外国人に日本の地方自治体が乗っ取られる可能性もあるのです。

帰化せずに参政権を持つというのは異常なことなのです。世界では、外国人に参政権がない国のほうが圧倒的に多いです。「帰化はしないが選挙権がほしい」というのは、あまりにも日本を馬鹿にしています。

外国人参政権法案はマスコミが報道しないため、知らない人が多いのが現状です。まずは、外国人参政権法案について知ることが重要です。そして、この法案に反対の人は政府や地方自治体に意見することが外国人参政権法案を止める一歩になります。

外国人参政権によって発生する問題



1. 外国人参政権法案が可決すると外国人でも議員に立候補できます。日本に住む外国人も投票でき、日本で外国人議員が当選しやすくなります。



2. 外国人が議員として当選すれば、日本にとって不利益な法案も提出できます。そのような議員が多くなれば、このような法案も簡単に通ってしまうのです。